

CEC 成果発表会「ネット社会の歩き方」原稿
山梨大学教育人間科学部附属小学校 奥山賢一
クリックの記号は

(スライド1：表紙)

午前中の表彰式の中でこれから発表させていただき、「ネット社会の歩き方」レッスンキットが先進企画部門で最優秀賞をいただきまして、本当にうれしく思っております。関係者一同、まず御礼申し上げます。ありがとうございました。

(スライド2)

さてこのプロジェクトは、全国小中高等学校4万校に通う1463万人を対象に、ネットワーク関連技術の進化と普及に伴うネット社会の光と陰について、学習してもらうコンテンツを制作することを目的に立ち上がりました。

こうした目的を設定する背景としては、学校教育でのインターネット利用場面の増大、家庭での接続の増加、さらに携帯端末の普及に伴う、トラブルの増加や危険に巻き込まれた実例、それに伴う相談件数の増加などがあげられます。現在、広がっているインターネット社会の光と陰のあることを前提に、「安全に、楽しく」歩んでいくために必要な学習教材の開発の必要性を強く感じていたからであります。

開発においては、学校の授業で使える学習コンテンツの準備、特に明日の授業ですぐに使える指導事例、言い換えれば指導案を用意すること、さらに家庭でも使えるコンテンツとして、一人学びをして内容理解を高めるための解説画面の設定準備を想定しました。またネットショッピングを疑似体験できるソフトの開発にも必要性を感じておりました。

(スライド3)

では、このプロジェクトの概要を説明します。「ネット社会の歩き方：レッスンキット」は、ネット社会において、子どもや大人が被害を受けたり、自分自身が被害を与えたりしている現状から、事前学習を行うことによって、そのような被害に合わないようになり、ネット社会の正しい歩き方を学習するカリキュラムの開発を目指しています。

カリキュラム内容としては、実際の授業で指導する手順を示す「指導事例」、授業の中で子どもたちが使用するワークシート、ソフトウェアの早見版であるプレゼン資料を用意しました。開発したソフトウェアは次の2種類となります。まず、学習ユニット。本年度は、一斉学習用と個別学習用に、同じ学習素材を展開の仕方によって分けました。また、ネットショッピングを疑似体験ソフトとしての「電腦商店街」も用意しました。

このプロジェクトの企画・制作はランドコンピュータがあたっています。事務局として

大変ご苦労をおかけしました。企画制作にあたって、教育界・放送界・消費者相談窓口の方が検討委員となり、各方面の立場からネット利用の現状と問題点を分析し、学習コンテンツに反映させてきました。

できあがった学習ユニットは、全部で34のテーマに分かれます。昨年度制作したテーマの倍になりました。テーマを分類しますと、情報検索関係が5こ、情報発信関係が11、コミュニケーション関係が12、ショッピング関係が6に分けられます。

(スライド4)

では、ここでできあがった学習ユニットについて説明します。学習ユニットはネット社会の歩き方のWebサイトから使用することができます。このWebサイトのURLは、<http://www.net-walking.net/>です。

インターネット接続回線の速度が遅い学校などのために学習ユニットを学校のサーバにダウンロードして使用していただけるようにもしてあります。その際は以下のURLにアクセスしていただき、ダウンロードして使用してください。

http://www.net-walking.net/DOWN_load/kyouzai-dl.htmです。(Webサイト「ネット社会を」)

実際に内容を見ていきましょう。黄色い枠で示された昨年度の教材へのリンクボタン、ピンクの枠で示された平成13年度、本年度の教材・指導事例集・プレゼン資料・ワークシート集などへのリンクボタン、そして碧の枠で示された教材のダウンロードなどへのリンクボタンが左側に用意されています。「学習ユニット」教材平成13年度版をクリックすると先ほどのスライドページと同じ画面にかわります。

学習ユニットの画面では、個別学習用と一斉学習用に分かれさらにそれぞれが小学校用・中学校用・高校用・全校種用の目次にリンクボタンが用意されています。34個のテーマの中で、中学生以上向きのもは小学校のも目次には含まれていません。同様にして校種別の目次にリンクされています。全校種用ボタンから目次へジャンプします。1の「無料ダウンロードは慎重に」を見ていきましょう。(画面をクリックしながら、内容を説明)

(スライド5)

今、見ていただいた「無料ダウンロードは慎重に」は、個別学習用でしたが、一斉学習用はどうであるか、確認していきます。一斉学習では、子どもたちが学習ユニットと一緒に視聴して行きながら、どの場面に問題が潜んでいるか、どうしてこうなったのか、考えていきます。さらにこの後どうなるかを話し合っていきます。言い換えると、学習ユニ

ットをもとに、どうして行くべきか考える授業を行っていきます。当然ワークシートなども利用して考えを整理したり、まとめたりする時間も設定していきます。従ってスライド数も6枚で終了しています。

(スライド6)

これに対して、個別学習用では、学習ユニットのストーリーを見ながら、一人で学んでいきますので、ストーリーの最後を示し、どこに問題があったか、どんなことに気をつけていかなければならないか、ネット社会の問題点や対処方法も明示しています。言い換えれば学習のまとめまでを含んでいます。その結果スライド数は多くなります。この個別学習用は家庭学習でも利用できますので、小中高校生のみならず、大人の方々も利用していただけます。

(スライド7)

次に電腦商店街について紹介をします。このソフトウェアは、ネットショッピングの疑似体験ソフトとして開発したものです。実際に行われているネットショッピングの過程を体験してもらうよう、商品の選択の仕方、契約の仕方、商品到着までの過程を実際と同じように体験してもらうソフトです。この商店街には8つの商店がありますが、中には悪徳業者もいる設定としています。また入金トラブルも体験できますし、支払方法についても選択できるようにしています。

今日は時間の関係で電腦商店街ツアーの形で、商店街の様子を見ていくことにします。
(画面をクリックしながら、内容を説明)

みていただいたもの以外に7つの商店がありますが、実際には1つの商店だけがきちんとしており、それ以外は何か問題が潜んでいます。どの店が安心できる店か、探し出す中で取引のノウハウを学んでいきます。

(スライド8)

開発された学習ユニットや電腦商店街は検討委員の学校で1月末から2月上旬に、検証授業を行っています。

私の学校である山梨大学教育人間科学部附属小学校では、4年生3クラスと6年生3クラスで各2時間ずつ実施をしました。

4年生はこれまで行ってきた外部の人々とのメール交換やwebページに公開してきた内容から「個人情報を公開する危険性」について考える学習をまず1時間行いました。その際、一斉学習用の学習ユニット「チャットで個人情報を言わない」のアニメーションをい

っしょに見た後、その後のアニメーションの展開を予想させ、どうしてそのような危険性が予想されるのか、見たアニメーションに潜んでいた「個人情報を公開していた場面や登場人物の気持ちを考える学習」を行いました。

6年生は一斉学習用の学習ユニット「web サイトの情報を活用しよう」と「こんな web サイトに気をつけて」を使って、検索エンジンの使い方やトラップサイトの危険性を考えていきました。どちらの学年も一斉学習後、個別学習用の学習ユニットでさらに1時間学習を続けました。子供たちは個別学習用の学習ユニットでは、解説画面まで食い入るように読んでいきました。

指導にあたった教師（合計5名）も、事前学習会を開いて学習ユニットの内容を確認した上で授業に臨んだわけです。「こんな危険性もあるのか、こんな使い方もあるのか」と、教える前にこれまで知らなかったことを勉強できた后感嘆してしていました。また一斉学習用は、ストーリーの途中で考えさせるようになっており、その後の展開を予想するいろいろな意見が出て、子供たちが考えを深めることができたと言えます。

松坂市立中部中部中学校では、2年生合計5時間の一斉授業において、インターネットを利用した情報発信とコミュニケーションの注意点を学習する時間のなかで、学習ユニット「ネットで悪口が罪になる」「おもしろ半分では無責任」を利用した授業を行っています。まず、電子掲示板に自由に書きこみをさせて、その後、発言の中にふざけた内容や悪口が書き込まれているか、皆で見ながら、どう思ったか発言させていきました。その後、学習ユニットを見せています。

アニメーションのため学習テーマに対する興味・関心も高まり、生徒の日常生活に即したストーリーのため身近な問題として考えられたということです。学校内ネットワーク内とインターネット影響の大きさの違いについて考えさせ、教室内でのいたずらとは次元が違うことを理解させることができたといえます。

また千葉学芸高等学校では、「ネット社会の歩き方レッスンキット」を情報科の授業に取り入れた授業を実践しています。この授業では「ねずみ講」の学習ユニットを視聴した後、善意から送られたチェーンメールについて考えていく過程を実践しています。この様子は昨年11月8日にNHK「教育トゥデイ」で放映されました。また昨日も再放送されたものです。（Real Player を起動）これからその一部をご覧いただくことにします。（約3分間）

いかがだったでしょうか。

(スライド9)

さて、学習ユニットを授業実施した学校では、学習にユニットに対する子どもたちからの声をアンケートで集計しました。このアンケートには小学生から高校生まで1380名が回答しています。(グラフを)アンケートの項目は、「学習ユニットを見て何が問題だったかわかったか」という質問や、「事前にこのような問題があったことを知っていたか」、さらにユニットの操作性やデザイン性などです。

教師用のアンケートも同様な項目で実施しています。全体的に学習ユニットに対する評価は高く、特に小学生にとって知らなかった内容が多かったことから事前学習の効果が期待できると感じました。

(スライド10)

また、学習ユニットは授業や研修会でこの学習ユニットがすでに利用されています。ここで利用されたユニットは主に昨年度のものですが、本年度のものも2月より公開しましたので、さらに利用していただけると期待しております。

(スライド11)

さて、今年度は個別学習用に解説画面を学習ユニットに入れてきました。この解説画面にはネット社会を生き抜くための様々な情報がまとめられています。そのため、テーマとして一つにあげられた「携帯電話を賢く使おう」では、携帯電話に関する様々な問題が取り出されており、解説画面に盛り込んだ内容が7ページにも及んでおります。また解説内容がどうしても専門用語を多く用いなければならず、小学生には若干難しくなったと言えます。

しかし、利用していただいた方々から「こうした学習材を待っていた」「こんな問題もインターネットで起きているのか」というユニットに対する好意的な感想を数多く寄せていただきました。子どものアンケートやユニットのダウンロード状況も合わせて、利用していただける内容であると開発に携わった者は苦勞のかわがあったと喜んでおります。

インターネットが普及して数年。個々の官に様々な問題が発生し、問題の質は深化拡大しております。こうした問題に直面してきた方々が職種を越え、「何とかしなければならぬ」「これまで問題解決の過程で培ってきた「Know How」を伝えていきたい」とい思いを込めて、このプロジェクトを遂行してきました。これが「学習ユニット」や「電腦商店街」の内容構成に生かされたと思います。そして利用したい方々の多様なニーズに対応できたと考えております。

この培ってきた「Know How」、問題意識こそが教材開発の原動力になっていると確信しております。これからもその原動力を引き継いで参りたいと思います。

(スライド12)

つたない発表でしたが、以上で「ネット社会の歩き方」レッスンキットの発表を終わります。ご声調ありがとうございました。